

作成日：西暦 2022 年 06 月 29 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：栄養関連転写因子と悪性腫瘍の重症度との関連に関する観察研究

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

1．研究の対象

2019 年 1 月～2019 年 12 月に当院で大腸がんの手術を受けられた方（バイオバンクへサンプル保存の同意を頂いた方）

2．研究目的・方法・研究期間

食事とがんの関係（特に悪性度）を明らかにするため、栄養素で活性化される転写因子（遺伝子のスイッチ）と標的遺伝子（食べ物の吸収・代謝に関わるもの）の遺伝子発現量（働き具合）とがんの悪性度を調べることで、将来的に治療の目印にできるかを調べます。

方法は、それぞれのがん（胃癌、大腸癌、肝臓癌）に対して、手術で採取した癌と正常部分における上記遺伝子の発現量を定量的 PCR 法で測定し、年齢などを考慮した上で癌の悪性度と比較します。

研究期間は倫理審査委員会承認日～2026 年 3 月 31 日です。

3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、臨床的に診断されたステージ（画像検査データ、病理組織データ）、BMI、化学療法の有無、がんの場所、飲酒量
血液データ（血算、血糖、HbA1c、脂質、腎機能、HBsAb、HCVAb、ANCA、アルブミン、白血球数、Prognostic nutritional index (PNI)、インスリン、C ペプチド、Fib-4 index、HOMA-R）

試料：手術で摘出した組織（癌、正常）

4．外部への試料・情報の提供

ありません。

5 . 研究組織

本学の研究責任者：

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚 勝美

6 . 除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

藤田医科大学 臨床栄養学講座

担当者：飯塚勝美

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2329

e-mail:katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。

HM23-111 健診受診者における食品頻度摂取調査と食事記録アプリの比較検討の研究に参加された皆様へ

酢酸摂取量の実態調査及び各種栄養素摂取量、体組成の関連についての検討 という研究を行います。

研究の目的：

我々は酢酸自体の効果よりむしろ“酢酸”を使った料理の持つ食品には栄養素の多様性があり、これが栄養状態に影響するのではないかと考えました。

また、従来の食品摂取記録調査では調味料での酢酸摂取量しか評価できず、食べ物に入っている酢酸量を推定することは困難だったので、我々が開発した7日間の食事記録アプリでの記録により食事摂取量を評価する方法を利用して、酢酸摂取量と食物繊維などの各種栄養素、食品多様性との関連を明らかにします。酢を使った料理の摂取量から、食品多様性が類推できるのであれば、食事記録アプリへ表示し、酢を使った料理の摂取を促すなど簡便な栄養指導の創出につながると考えました。

本研究では150名の方に食事記録アプリでの測定を行いますが、大変人手も手間もかかる研究であるため、HM23-111研究の結果(59名)を部分的に二次利用します。

対象者は以下のとおりです。

* 新規に食事記録アプリの記録及びBDHQを行う方 150名

* 以前の研究でBDHQと食事記録アプリを行った方 59名(承認番号 HM23-111)

この文書は、以前の研究でBDHQと食事記録アプリを行った方 59名(承認番号 HM23-111)を対象にしたものです。

HM23-111 研究に参加された方に関して、情報を利用するのは以下のとおりです。

研究の概要、試料・情報の利用目的及び利用方法

2022年度に実施した食事記録アプリと食物頻度摂取調査(FFQ、BDHQ)の試験結果を標準データとして再利用します。

利用し、又は提供する試料・情報の項目

年齢、性別、身長、体重、BMI、握力

健診時採血データ(Hb、HbA1c、T-Chol、TG、HDLc、non HDLc、リンパ

球数)

BDHQ 及び食事記録アプリにおける栄養素及びエネルギー量

項目：エネルギー量、酢酸摂取量、炭水化物、脂質、たんぱく質、各種
ビタミン摂取量、飽和および不飽和脂肪酸量、コレステロール、n-3 系及
び n-6 系不飽和脂肪酸、食物繊維（水溶性、不溶性、総量）、食塩、Fe、
Ca）、アルコール摂取量、及び食品多様性スコア（DVS）

利用する者の範囲

20・60 歳の当大学の教職員

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・
情報の利用又は他の研究機関への提供を停止すること。該当者でこの研究で
使用したくない人は申し出ていただき、データから除外することが可能です。

の研究対象者又はその代理人の求めを受け付ける方法、及び相談窓口

藤田医科大学臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

メール：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp 電話：0562-93-2329

研究機関の名称並びに研究機関の長及び研究責任者の氏名

研究機関の長:藤田医科大学 学長 湯澤由紀夫

研究責任者：藤田医科大学臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

掲示文書

入院中食事アンケートを用いた食欲低下に関連する因子 の同定に関する横断的観察研究

—低栄養リスク患者の早期発見、早期栄養介入を目的とした研究—
についての案内です。

研究期間：倫理審査委員会承認日～2027年3月31日

研究対象の期間：2022年1月1日・2026年3月31日

研究の概要、試料・情報の利用目的及び利用方法

皆さんが入院中に提出された、食事満足度調査(食事に関するアンケート調査)を二次利用し、食欲が低下している人の原因を調べる研究をしています。結果を用いて、食欲低下をきたしやすい人を割り出し、早めに管理栄養士が食事の提案をすることを目指します。また、食欲低下と食事の満足度との関係を調べます。

なお、全て匿名のデータを利用するため、**どの方**のデータを利用したかを確認する手段がないので、申し出ても研究データから削除することはできません。

利用し、又は提供する試料・情報の項目

アンケートは無記名で、アンケートで聞かれた結果(年齢、性別、入院期間、食種、入院病棟及び体格の情報(BMI)、食欲低下の原因(味覚障害、下痢、便秘、嘔吐、歯の痛み、全身の痛み、発熱、口内炎)、食事満足度

利用する者の範囲

藤田医科大学病院の入院患者で、食事満足度調査に答えていただいた患者

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚 勝美

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用又は他の研究機関への提供を停止すること。

該当しない

なお、研究にかかる費用は学内の講座研究費により支払い、外部からの資金提供はありません。

研 究 資 金： 本学内の講座研究費を使用する。外部の研究資金を受けない。

物的・人的支援： 外部の物的・人的な支援を受けない。

利 益 相 反： 研究責任者と研究分担者に、本研究に係わる開示すべき利益相反はない。藤田医科大学利益相反委員会へ申請を行い、利益相反マネジメントを受ける。

相談窓口

藤田医科大学医学部臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

電話：0562-93-2329

メールアドレス：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

研究機関の名称並びに研究機関の長及び研究責任者の氏名

研究期間の長：藤田医科大学 学長 湯澤由紀夫

研究責任者：藤田医科大学 医学部 臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

作成日：西暦 2024 年 1 月 12 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：食事調査に基づくビタミン欠乏とその原因の実態調査

本研究は藤田医科大学の[医学研究倫理審査委員会](#)で審査され、学長の許可を得て実施しています。

1．研究の対象

2021 年 12 月から 2023 年 11 月に藤田医科大学病院 国際医療センターで検診を受けた方

2．研究目的・方法・研究期間

目的

藤田医科大学病院 国際医療センターの検診では、ビタミンの測定だけでなく、口腔評価、内服薬（制酸薬、糖尿病薬）、内分泌機能（甲状腺）、ピロリ抗体、胃内視鏡の検査を同時に行なっているため、この研究では、ビタミン欠乏の頻度および原因の実態調査を行います。

方法

カルテからビタミン濃度、内服薬の情報、口腔機能評価、内分泌機能（甲状腺）、ピロリ抗体などのビタミン欠乏の原因がビタミン欠乏の有無でどう変わるかを調べます。またロジスティック回帰分析を行い、上記の原因がどのようにビタミン欠乏に寄与するかを明らかにします。

研究期間

承認日～2027 年 1 月 31 日

3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：内服薬、既往歴、アルコール摂取量、サプリメントの服用歴、カルテ番号、血液検査データ（ビタミン B1、B12、25OHD、TSH、FT4、アルブミン、プレアルブミン、CRP、リンパ球数、コレステロール、Conut Score）、口腔フレイル検査、義歯の本数

4．外部への試料・情報の提供

なし

5 . 研究組織

本学の研究責任者：藤田以下大学医学部臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

6 . 除外の申出・お問い合わせ先

情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方に
ご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお
申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生
じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範
囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

藤田医科大学 医学部 臨床栄養学講座

担当者：飯塚 勝美

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2329

e-mail:katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と
研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。

食事摂取速度測定法と食事の種類による違いに関する検討 という研究に参加していただける方を募集しています。

研究の目的：

食事を食べる速度が病気や栄養状態と結びついている可能性はあるのですが、未だ証明されていません。何らかの基礎疾患が発症した場合には、将来的に肥満や痩せなどの栄養障害が発症する恐れがあります。そのため、食事を食べる際の速度や癖を知ることによって将来の栄養障害を予防できる可能性があります。

募集対象：

藤田医科大学病院に勤務する教職員、学生で下記を満たす方。

1. 本研究の参加にあたり、十分な説明を受けた後に、十分な理解の上に、本人の自由意志による文書同意が得られた職員、学生
2. 同意取得時に 20 歳以上 65 歳以下の職員、学生

(注意)

研究への不参加あるいは途中で参加を取りやめることによって、勤務評定や学業成績などにおいて不利益な取扱いを受けることはありません。

協力していただくこと：

朝ごはんから 4 時間空けて、昼食として、普通市販されているピザもしくはパンケーキを食べるスピード、噛む回数を測ります。違う日に、ハンバーグ定食とサラダを食べていただきます。

サラダから先に食べる場合、ハンバーグとご飯から食べる場合の 2 回行います。なお、身長（自己申告）、体重、筋肉量、体脂肪量、血圧、握力を測定します。

募集人員：20・30 人程度

謝礼：1 回の食事につき、500 円の QIO カードを進呈します。(最大 1500 円)

連絡先：臨床栄養学講座 飯塚 勝美にメールにてご連絡ください。

メール：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

メトロノームのリズム刺激が咀嚼テンポに与える影響に関する研究という研究に参加していただける方を募集しています。

研究の目的：

咀嚼は栄養素の吸収に必要な機能として知られています。咀嚼回数の増加は唾液の分泌量の増加につながることが知られ、歯周病の予防につながるとされています。それ以外にも、頬、唇、舌の筋肉を協調させるため、脳へ刺激を与えることで、認知症予防になると言われている。高齢者では咀嚼回数は低下しないものの、咀嚼テンポ（速度）が低下することが言われているものの、咀嚼テンポは体のどの部位における機能低下を反映するのかは不明です。そのため、年齢やBMIで調整したのちに、咀嚼テンポと筋肉量、筋力（握力）、身体運動能、体格、咀嚼力との関連をまず明らかにします。咀嚼テンポと身体機能や体組成との関連が明らかになれば、咀嚼テンポは、バイオマーカーの一つとしての意義を明らかにすることができます。次に、パーキンソン病では歩行訓練にて音リズム刺激が用いられることに着想を得て、メトロノームのリズムに合わせることで咀嚼テンポ、咀嚼回数が増加するかを検討します。メトロノームのリズムを早めたり、遅くしたりすることで咀嚼テンポが調節できるのであれば、音楽により試験者の食事時間を調節することが可能となります。肥満は早食いといわれるが、ゆっくりしたテンポの音楽を流すことで、食事時間を延長させることで、肥満患者の早食いを改善できる可能性があります。

募集対象：

藤田医科大学病院に勤務する教職員、学生で下記を満たす方。

1. 本研究の参加にあたり、十分な説明を受けた後に、十分な理解の上に、本人の自由意志による文書同意が得られた職員、学生
2. 同意取得時に20歳以上65歳以下の職員、学生

（注意）

研究への不参加あるいは途中で参加を取りやめることによって、勤務評定や学業成績などにおいて不利益な取扱いを受けることはありません。

協力していただくこと：

朝ごはんから 4 時間空けて、昼食として、普通市販されているピザ、フランスパンを食べるスピード、噛む回数を測ります。

なお、身長（自己申告）、体重、筋肉量、体脂肪量、血圧、握力、5 回椅子立ち上がり試験を測定します。食事に関する質問票により、通常の食事摂取量も測定します。食事中には影響が出るため、水分の摂取を行わないようにお願いします。

募集人員：30・50 人程度

謝礼：1000 円の QIO カードを進呈します。

連絡先：臨床栄養学講座 飯塚 勝美にメールにてご連絡ください。

メール：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

作成日：西暦 2024 年 7 月 3 日(第 3 版)

西暦 2023 年 5 月 7 日(第 2 版)

西暦 2023 年 1 月 16 日(第 1 版)

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：若年低体重女性における栄養状態の実態調査

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

1．研究の対象

2022 年度職員健診で低体重(BMI<17.5)を指摘され、藤田医科大学病院栄養評価外来に紹介された患者(2022 年 11 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに初診で受診された方で男女含む)

また、2012 年度から 2022 年度の職員健診を受診した 20 歳から 65 歳までの男性および女性の方。

2．研究目的・方法・研究期間

現在、モデル体型として若い女性の間でシンデレラ体重という言葉が飛び交っています。

シンデレラ体重とは BMI 18 の人を指しますが、一般的には低体重とされる体重です。

しかし、若い女性の低体重は社会問題になっており、不妊、将来の糖尿病発症、骨折などのリスクを抱えることとなります。しかし普通は病院受診のきっかけが無いので、実態は不明な点が多いです。そのため、当院の検診で BMI<17.5 の方を対象に、栄養状態、ビタミン欠乏症の頻度、体組成について調査します。

方法は、カルテを用いて下記の情報を収集し、ビタミン欠乏の比率、低栄養の重症度、体組成の実態について調べます。期間は研究が承認されてから、2027 年 3 月 31 日までです。今年度の職員健診を受診した 20 から 40 歳までの女性(BMI、握力、血圧、HbA1c、総コレステロール、リンパ球数)及び男性(BMI、年齢)の方については、名前がすでにわからない状態で健診受診時の情報を提供いただき、正常範囲の設定に利用します。また、2012 年度から 2022 年度の職員健診を受診した 20 歳から 65 歳まで男性および女性の方について、年齢、性別、BMI、身長、体重とともに、栄養マーカー(総コレステロール、リンパ球数、ヘモグロビン)、代謝マーカー(HbA1c、トリグリセリ

ド、non HDL コレステロール) を名前がすでにわからない状態で提供していただき、
経年変化を観察します。

3 . 研究に用いる試料・情報の種類

情報：

- ☐ 性別、年齢、身長、体重、BMI、
- ☐ 20 歳時、1 年前の、現在の体重と BMI
- ☐ 握力（右、左）、下腿周囲長、血圧
- ☐ 体脂肪率、骨格筋量、内臓脂肪指数 (Inbody で測定)
- ☐ 食品摂取頻度調査の結果（総エネルギー、各栄養素摂取量、食品摂取の頻度など）
- ☐ 下記検査データ（健診時及び栄養評価外来の紹介受診時＊）
ヘモグロビン、WBC、リンパ球数、総コレステロール、トリグリセリド、LDLc、
HDLc、アルブミン、プレアルブミン、FT₄、TSH、ビタミン B1、B12、葉酸、25OH
ビタミン D、ALP、BAP、TRACP-5b、カルシウム、リン、クレアチニン、BUN、
eGFR、HbA1c、CRP
- ＊ は 6 ヶ月以内
- ☐ 併存疾患（低栄養の鑑別で新たに分ったものを含む）

観察時期：2022 年度健診、健診後二次検診受診後（検診から大体 6 ヶ月以内）。

観察期間：検診後に紹介受診され、採血結果が全て判明した時点。

2012 年から 2022 年度までの健診データ（個人がわからない状態で健康管理部より供与）
年齢、性別、BMI、身長、体重、総コレステロール、リンパ球数、ヘモグロビン、代謝マ
ーカー（HbA1c、トリグリセリド、non HDL コレステロール

4 . 外部への試料・情報の提供

外部への情報の提供はありません。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理しま
す。

5 . 研究組織

本学の研究責任者：

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

6 . 除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。さらに、研究への不参加あるいは途中で参加を取りやめることによって、勤務評定などにおいて不利益な取扱いを受けることはありません。

なお、健康管理部より提供いただく 20 歳から 65 歳の男女のデータに関してはすでに匿名化された後のデータで個人が特定できないため、研究参加拒否の申請があっても削除できません。

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

藤田医科大学 臨床栄養学講座

担当者：飯塚 勝美

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2329

e-mail:katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

2025 年 7 月 XX 日

「ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究」
「ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究 II」
にご参加いただいた皆様へ

シンバイオシス・ソリューションズ株式会社

当社では芝パレスクリニックの倫理審査委員会で審査・承認された「ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究」および「ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究 II」を実施しております。これらの研究にご参加いただいた皆様より腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態に関する情報等を提供いただきました。

このたび、さらなる健康状態の増進や疾病の予防に有効な方法を探索・開発するため、皆様の腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態に関する情報等を「若年低体重女性における腸内細菌叢と食品摂取多様性の関連に関する研究（シンデレラのおなか研究）」で活用させていただくことになりました。

対象者に該当する可能性のある方またはその代理人で、腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態に関する情報等を「若年低体重女性における腸内細菌叢と食品摂取多様性の関連に関する研究（シンデレラのおなか研究）」で活用することを希望しない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

【若年低体重女性における腸内細菌叢と食品摂取多様性の関連に関する研究（シンデレラのおなか研究）】

研究の名称	若年低体重女性における腸内細菌叢と食品摂取多様性の関連に関する研究（シンデレラのおなか研究）
研究の目的	腸内細菌叢の構成が体格に与える影響を明らかにすることを目的とし、若年低体重女性と正常体重女性を対象に、腸内細菌叢および食事内容の比較を行う。また、若年低体重女性においては、生活様式（シフト勤務の有無、独居・同居の状況）によって群分けを行い、それぞれの腸内細菌叢の特徴を比較・検討することで、体格と腸内環境の関連性を多角的に評価する。
研究代表者	藤田医科大学 臨床栄養学講座 飯塚 勝美
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 西暦 2027 年 3 月 31 日

利用する資料・情報の項目	腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態等に関する情報
--------------	-------------------------

【ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究について】

研究の名称	ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究
当社の研究責任者	増山 博昭
研究期間	2020 年 1 月 16 日 ～ 2030 年 3 月 31 日
腸内細菌叢が消化管疾患の発生や経過とその関連疾患に与える影響の解析に活用する内容	腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態に関する情報のうち、既知の情報を匿名化した状態で活用する。
腸内細菌叢が消化管疾患の発生や経過とその関連疾患に与える影響の解析で資料・情報を活用する目的・方法	【目的】 ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究で収集したデータを腸内細菌叢が消化管疾患の発生や経過とその関連疾患に与える影響の解析で活用することで、健康状態の増進や疾病の予防に有効な方法の探索・開発を推進する。 【方法】 ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究で過去に収集した情報についてについて、個人が特定できないように匿名化した上で活用する。
試料・情報の管理責任者	シンバイオシス・ソリューションズ株式会社 増山 博昭
試料・情報の活用及び共有・提供を希望しない場合等の連絡窓口	シンバイオシス・ソリューションズ株式会社 research@symbiosis-solutions.co.jp ※ご連絡の際は、「氏名」「生年月日」「検体提供時期」を明記ください。

【ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究 II について】

研究の名称	ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究 II
当社の研究責任者	増山 博昭
研究期間	2020 年 11 月 19 日 ～ 2030 年 3 月 31 日
腸内細菌叢が消化管疾患の発生や経過とその関連疾患に与える影響の解析に活用する内容	腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態に関する情報のうち、既知の情報を匿名化した状態で活用する。
腸内細菌叢が消化管疾患の発生や経過とその関連疾患に与える影響の解析で資料・情報を活用する目的・方法	【目的】 ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究で収集したデータを腸内細菌叢が消化管疾患の発生や経過とその関連疾患に与える影響の解析で活用することで、健康状態の増進や疾病の予防に有効な方法の探索・開発を推進する。 【方法】 ヒトの腸内細菌叢、生活習慣及び健康状態の関連性に関する疫学研究で過去に収集した情報についてについて、個人が特定できないように匿名化した上で活用する。
試料・情報の管理責任者	シンバイオシス・ソリューションズ株式会社 増山 博昭
試料・情報の活用及び共有・提供を希望しない場合等の連絡窓口	シンバイオシス・ソリューションズ株式会社 research@symbiosis-solutions.co.jp ※ご連絡の際は、「氏名」「生年月日」「検体提供時期」を明記ください。

以上

作成日：西暦 2025 年 3 月 21 日(第 2 版)

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：低体重女性における体格（骨格筋量、体脂肪率、脂肪/筋肉比）と栄養状態の観察研究 性別・年齢との比較

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

1．研究の対象

2022-2024 年度職員健診で低体重(BMI<17.5)を指摘され、藤田医科大学病院栄養評価外来に紹介された患者（2022 年 11 月 1 日から 2024 年 11 月 30 日までに初診で受診された方で男女含む）

2．研究目的・方法・研究期間

現在、モデル体型として若い女性の間でシンデレラ体重という言葉が飛び交っています。

シンデレラ体重とは BMI 18 の人を指しますが、一般的には低体重とされる体重です。

しかし、若い女性の低体重は社会問題になっており、不妊、将来の糖尿病発症、骨折などのリスクを抱えることとなります。しかし普通は病院受診のきっかけが無いので、実態は不明な点が多いです。そのため、当院の検診で BMI<17.5 の方を対象に、栄養状態、ビタミン欠乏症の頻度、体組成について調査してきました。今回は 2022 年度から 2024 年度の 3 か年について調査します。方法は、カルテを用いて下記の情報を収集し、ビタミン欠乏の比率、低栄養の重症度、体組成の実態について調べます。なお、若年女性に加えて、男性や中年女性のデータも収集し、異なる年代、性別とも比較します。期間は研究が承認されてから、2027 年 3 月 31 日までです。

3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：

- ☐ 性別、年齢、身長、体重、BMI、握力
- ☐ 20 歳時の体重と BMI
- ☐ 体脂肪率、骨格筋量、内臓脂肪指数 (Inbody で測定)、骨格筋指数（骨格筋量と身長より計算）、脂肪/筋肉比

- ☐ 食品摂取頻度調査の結果（総エネルギー、各栄養素摂取量、食品摂取の頻度、朝食欠食の有無、食品摂取の多様性得点（DVS）のような多様性の指標）
- ☐ 骨密度（大腿頸部、椎骨 L1-L4）（骨密度は栄養評価外来で初診後 3 年以内に測定したものを含む）
- ☐ 下記検査データ（健診時及び栄養評価外来初診時から 6 ヶ月以内）
 検診データ（受診時に持参）及び初診時から 6 ヶ月以内の血液検査データ（血算及び白血球分画、リンパ球数、総コレステロール、トリグリセリド、HDL コレステロール、アルブミン、プレアルブミン、FT4、TSH、ビタミン B1、B12、葉酸、25OH ビタミン D、ナトリウム、カリウム、クロール、カルシウム、リン、クレアチニン、BUN、eGFR、HbA1c、CRP、血糖、HbA1c）
- ☐ 骨密度（大腿頸部、椎骨 L1-L4）（骨密度は栄養評価外来で初診後 3 年以内に測定したものを含む）
- ☐ 併存疾患（低栄養の鑑別で新たに分かったものを含む）
- ☐ 内服薬
- ☐ 月経異常の有無

観察時期：2022-2024 年度健診後二次検診受診後（検診から大体 6 ヶ月以内）。

観察期間：健康診断後に健康管理部より紹介受診され、採血結果が全て判明した時点。

4．外部への試料・情報の提供

外部への情報の提供はありません。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5．研究組織

本学の研究責任者：

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

6．除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。さらに、研究への不参加あるいは途中で参加を取りやめることによって、勤務評定などにおいて不利益な取扱いを受けることはありません。

この研究は、一般社団法人 J ミルク乳の学術連合牛乳乳製品健康科学会議の研究委託金を受けています。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

藤田医科大学 臨床栄養学講座

担当者：飯塚 勝美

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2329

e-mail:katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

作成日：西暦 2025 年 7 月 7 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：1 日平均酢酸摂取量と食事の嗜好、食事時間、栄養素摂取との関連
についての観察研究

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

1．研究の対象

あすけん（食事記録アプリ）より購入された、Mizkan Holdings 中央研究所の保有する食事データ

2．研究目的・方法・研究期間

研究目的：

本研究は Mizkan Holdings 中央研究所の保有する食事記録アプリをもとに採取されたデータをもとに、酢酸の 1 日平均摂取量が食事の嗜好、食事時間、摂取エネルギー、栄養素摂取量にどの様に関係するかを明らかにする研究です。

方法：

- ☐ 年齢、性別で層別化し、各種嗜好の有無で酢酸摂取量の違いを t-test で比較します。
- ☐ 嗜好の有無を従属変数、年齢、性別で調整し、1 日の酢酸摂取量、BMI を目的変数として、ロジスティック多変量解析を行います。
- ☐ 1 日の酢酸摂取量を従属変数、年齢、性別で調整し、BMI、嗜好の有無を目的変数として、ロジスティック多変量解析を行います。
- ☐ 食事時間を従属変数、年齢、性別で調整し、1 日の酢酸摂取量、BMI を目的変数として、ロジスティック多変量解析を行います。
- ☐ エネルギー摂取量及び栄養素摂取量を従属変数、年齢、性別で調整し、1 日の酢酸摂取量、BMI を目的変数として、多変量解析を行います。

研究期間

倫理審査委員会承認日～2028 年 03 月 31 日

3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：

観察項目

年齢、性別、身長、体重、BMI

糖尿病、高血圧、脂質異常症の既往歴

味覚の嗜好（あっさり、甘辛い、スパイシー、甘い、塩辛い、濃い・コッテリ、さっぱり、辛い、クリーミー、すっぱい、苦い）

毎回の食事頻度（週に何回）

毎回の食事時間（0-10 分、10-20 分、20-30 分、30 分-1 時間）

睡眠時間（< 5、5-6、6-7、7-8、8-9、>9 時間）

エネルギー摂取量 + 栄養素摂取量

1 日平均の酢酸摂取量（7 日以上）

4．外部への試料・情報の提供

なし

5．研究組織

本学の研究責任者：

藤田医科大学医学部臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

既存試料・情報の提供のみを行う機関：

関連機関

株式会社 Mizkan Holdings 中央研究所

担当者 研究所長 岸 幹也

チームリーダー 吉本 靖東

研究員 青木 祐人、小平 理乃

役割 Mizkan Holdings 中央研究所の保有する被験者データ（栄養摂取量、食事ごとの食事時間、甘い辛いなどの食事の嗜好のデータ）を提供していただきます。

6．除外の申出・お問い合わせ先

本研究では個人が特定できないデータを扱っているため、オプトアウト（同意の撤回）ができません。本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。本研究の利益相反は以下の通りです。

研 究 資 金： 本学内の講座費を使用します。外部の研究資金を受けません。

物的・人的支援： Mizkan Holdings 中央研究所との共同研究として実施します。Mizkan Holdings 中央研究所から食事時間・嗜好・酢酸摂取量・栄養素摂取量に関する情報を無償で提供されます。

利 益 相 反： 研究責任者は Mizkan Holdings から奨学寄付金を受けているが、本研究には使用しません。それ以外には、研究責任者と研究分担者は Mizkan Holdings との間に経済的関係が一切なく、また、本研究に係わる開示すべき利益相反はありません。

研究の実施（研究対象者のリクルート、モニタリング、統計・解析に関与する業務のすべてを含む）に対して、Mizkan Holdings は一切関与しません。藤田医科大学利益相反委員会へ申請を行い、利益相反マネジメントを受けます。

照会先：

相談等への対応

担当者；藤田医科大学臨床栄養学講座 主任教授 飯塚勝美

電話：0562・93・2329

メール：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp